

## 施策評価シート

幹事部局

政策企画局

施策の名称	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
施策の目的	日本を代表し、世界に誇ることのできる数々の地域資源を活用した地域振興を進めます。
施策の現状 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 島根県に存在する、世界文化遺産の石見銀山遺跡、隠岐ユネスコ世界ジオパークなどの歴史的遺産や、大山隠岐国立公園、ラムサール条約に登録された宍道湖・中海などの自然環境を活用した、観光やレジャーの振興、交流人口の拡大、地域の活性化を推進しているが、地域資源の持つ魅力や価値の発信において、各地域資源をまとめた一体的な取組がなされていないこともあり、認知度の広がり課題であり、観光面でも、滞在の長期化や観光消費額の増加に十分には繋がっていない。</li><li>・ 県内に向けては、地元市町村の学校教育の場で、地域資源を活用した授業や体験学習などが積極的に行われ、優れた地域資源を有する地元への誇りの醸成に寄与している。</li><li>・ 日本遺産として、新たに益田市「中世日本の傑作益田を味わう～地方の時代に輝き再び～」と、大田市「石見の火山が伝える悠久の歴史～”縄文の森””銀の山”と出逢える旅へ～」が認定され、県内の日本遺産を7件に増やすことができた。</li></ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 石見銀山の調査研究体系を、わかりやすい情報発信に繋がるよう見直し</li><li>・ 大山隠岐国立公園の体験プログラムを、ニーズ調査やアドバイザーを導入し開発に取り組む</li></ul>
今後の取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 歴史的遺産や自然環境の魅力を更に高めながら、アクセスの改善を検討、一体的な広報や教育場面での活用など情報発信を工夫・強化し、県内外での認知度を高め、交流人口の拡大と地域の活力に繋げる。</li><li>・ 観光への活用については、首都圏のPR専門会社と連携し戦略的にメディア露出を増やし、各資源の認知度の向上や来訪意欲の喚起を図るとともに、体験メニューの充実や早期に旅行商品化が見込まれる取組に対する重点的な補助や、定着を図るための継続的支援を行う。</li></ul>



事務事業の一覧

施策の名称		Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	平成25年9月に世界認定となった隠岐ユネスコ世界ジオパークの取り組みで、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る	72,656	67,646	自然環境課
2	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す	377,794	388,644	自然環境課
3	宍道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約の趣旨である「環境の保全」と「賢明な利用(ワイズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。	6,359	8,023	環境政策課
4	“ご縁の国しまね”観光総合対策事業	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	県外在住者:「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者:「ご縁」といった島根のイメージに沿った観光商品や受入体制をつくる。	0	333,332	観光振興課
5	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県民、国民等	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、未来に継承していく。	105,489	120,712	文化財課
6	島根の歴史文化活用推進事業	県民、国民等	しまねの豊かな歴史文化を、県民、国民に広め、県民には郷土への自信を培ってもらい、県外の方にはしまねの歴史文化の素晴らしさを知ってもらう。	286,194	62,588	文化財課
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	平成25年9月に世界認定となった隠岐ユネスコ世界ジオパークの取り組みで、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		72,656	67,646
			うち一般財源 (千円)	50,557	45,152
今年度の取組内容	地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のため、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会与連携した取組を実施 ①隠岐ユネスコ世界ジオパークを運営する推進協議会の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子供を対象とした体験学習の実施				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・国内外の認知度を更に向上させるため、情報発信手法を再検討、デジタルマーケティングやSNSを活用し、ターゲットを絞った情報発信を実施				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV	単年度値
		実績値	214,626.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定(次回再認定は令和3年度) ○隠岐地域の観光入込客延べ数:H30年168千人→R元年167千人(観光動態調査結果) ○交流人口数(推定入島客数):H30年度:124千人→R元年度:123千人 ○隠岐を訪れる外国人観光客:H30年度:911人→R元年度:1,133人(いずれも隠岐汽船利用者のみ)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	○令和3年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)の対応は進んでいる
課題分析	① 課題	○観光振興の面で観光入込客数や交流人口数などの具体的な数値に結果が表れていない ○隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度がまだ低い
	② 原因	○現在の情報発信手法では、届けたい相手に情報が届いていないため、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観などが観光資源として活用できていない ○地元の住民・事業者・行政等が来島者に魅力を伝える仕組みや取組が十分でない
	③ 方向性	引き続き以下の分野を柱とする具体的な事業を隠岐4町村及びジオパーク推進協議会与連携して取組む ①情報発信手法の見直し及び強化…デジタルマーケティングの実施、SNSでの情報発信等 ②多言語対応の強化…HPの改修、HP、リフレット、ガイドブック等の5か国語対応、QRコードの活用等 ③来島者の満足度向上…認定ガイドの養成、ジオパーク関連商品の開発、ジオサイト看板の更新 ④地域への啓発向上…島民対象の学習会・講座・検定・シンポジウム等の実施、ジオパークサポーターの養成 ⑤学校教育との連携…児童・生徒へのジオパーク学習、高校の魅力化(3高校の連携事業) ⑥施設・設備の整備…ビシターセンター、ガイドランス、人材育成機能を持つ拠点施設・中核施設の整備

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		377,794	388,644
			うち一般財源 (千円)	53,400	72,797
今年度の取組内容	平成28年度、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」に大山隠岐国立公園が選定されたことを機に、国立公園をはじめとした県内自然公園(国立公園、県立自然公園等)の受入体制を整備し、国内外からの来訪者の誘致と増加を目指す「しまね自然の公園満喫プロジェクト」に取り組んでいる。 令和2年度は、三瓶山地域、半島東部・西部地域の登山道・遊歩道や看板整備などの施設整備を進めるとともに、平成28年度から整備した施設の利用促進を図るため、体験プログラムの充実、案内サインやパンフレット等の多言語化などソフト事業を強化する。また、環境省の満喫プロジェクトは、今年度末で終了するため、次年度以降のフォローアップを検討する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	国内外からの来訪者が安全安心・快適に利用できるよう、自然歩道等の施設整備や案内看板の整備・多言語化を進める。また、地元地域協議会への支援を行い、体験プログラム造成やガイド養成等を図る。 引き続き、海外旅行会社向けモニターツアーを実施する。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	III-3-(1) 稼げるまちづくり

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	67,000.0	73,000.0	79,000.0	85,000.0	人	単年度値
		実績値	64,997.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・大山隠岐国立公園の関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)を環境省が推計 (過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人) ・令和元年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、98,094人(前年と比べ8.4%増加)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然公園等の遊歩道の整備、案内看板の整備や多言語化を実施し、受け入れ体制が徐々に進んでいる</li> <li>・海外旅行会社向けのモニターツアーを実施し、PRを図った。国内外からの来訪者も増えてきている</li> <li>・自然を体験できるアクティビティの拠点施設として、三瓶自然館にフィールドセンターを整備した</li> <li>・満喫プロジェクトの中核施設である三瓶自然館の展示施設リニューアルや小豆原埋没林公園のガイド施設を整備した</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</li> <li>・自然公園等の標識、遊歩道、看板の多言語化をさらに進める必要がある</li> <li>・各地域協議会で造成されている体験プログラムなどなかなか誘客に結びつかない</li> <li>・国内外における認知度が低い</li> <li>・地元を紹介するガイドの不足</li> <li>・自然公園への交通アクセスが悪い</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の交付金の配分が十分でなく計画的な整備ができない</li> <li>・ホームページやインターネットからの情報発信方法やターゲットに届いているか分析が不十分</li> <li>・ガイドの人材育成が不足している</li> <li>・自然公園への路線バスなどの公共交通機関の運行が不十分</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国への重点要望など強力な働きかけを行い、必要な交付金を十分に配分してもらう</li> <li>・国内外からの来訪者のために、案内看板やサインの整備、多言語化を進める</li> <li>・また、安全安心、快適に利用できる自然歩道等の施設整備と適切な維持管理を行う</li> <li>・地元地域協議会へ支援し、魅力的な体験プログラムの開発やガイド養成などソフト事業を促進する</li> <li>・地元協議会の今後のフォローアップを検討する</li> <li>・国立公園のプロモーションやマーケティングを行い、国内外への情報発信を強化する</li> <li>・自然公園への交通アクセスの手法を研究する</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	ラムサール条約の趣旨である「環境の保全」と「賢明な利用(ワイズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。		6,359	8,023
今年度の取組内容	①水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業 人の五感による湖沼環境評価調査、小中学生による流入河川調査 ②ラムサール・大型水鳥啓発事業 ラムサール関連イベント(子どもラムサール交流会、バイク&ラン、中海宍道湖一斉清掃、15周年記念事業)、大型水鳥を活用した普及啓発(水鳥観察会、パネル展示会など) ③大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業(トキ、コウノトリを活用した広域連携ネットワーク活動の支援)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・活動団体等と連携した大型水鳥関連イベント(水鳥観察会など)の実施 ・沿岸市や集客施設で宍道湖・中海の賢明利用促進のためのパネル展示会の実施				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①人の五感による湖沼環境評価調査	湖沼モニター数(人)	H28:81	H29:59	H30:61	R1:59			
		②小中学生等による流入河川調査	実施団体数(団体)	H28:31	H29:34	H30:32	R1:32			
		③中海宍道湖一斉清掃	参加者数(人)	H28:8,134	H29:7,867	H30:7,050	R1:6,665			
		④ラムサール関連イベント	実施イベント数(回)	H28:1	H29:2	H30:1	R1:1			
		⑤大型水鳥関連イベント	実施イベント数(回)			H30:2	R1:7			
		⑥賢明利用関連普及啓発	広報数(回)				R1:4			

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・宍道湖・中海の魅力を発信する事業の実施により、その魅力に触れる機会は増えている。 ・パネル、パンフレット等を新調するなど、普及啓発媒体の充実を図った。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性
		・宍道湖・中海の魅力が十分に伝わっていない。 ・単発的なイベント等だけでは、関心が広がらず定着しにくい。 ・関連集客施設(賢明利用スポット)と連携したPRなどにより、施設への来訪者の増加と両湖の認知度の向上という相乗効果を図る。(施設での賢明利用パネル等の展示、賢明利用パンフレットでの施設の紹介など)



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

観光振興課

事務事業の名称		“ご縁の国しまね”観光総合対策事業			
目的	誰(何)を対象として	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県外在住者:「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者:「ご縁」といった島根のイメージに沿うような観光商品や受入体制をつくる。			333,332
今年度の取組内容	【情報発信】来訪意欲向上のため、「ご縁」「歴史文化」「しまねっこ」等を活用したプロモーションを展開する。また、島根への誘客や再来訪につなげるため、観光客等の口コミを活用し、魅力を発信する。 【誘客促進】出雲、石見、隠岐圏域ごとの地域の観光素材を活用した着地型旅行商品の造成、周遊対策を行う。また、JR、NEXCO等の交通機関、他県等との広域連携による誘客促進を図る。  ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、スケジュール等の変更あり				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	観光入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		32,800.0	33,100.0	33,400.0	33,700.0	34,000.0	千人	単年度値
		実績値	32,990.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	宿泊客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		3,730.0	3,760.0	3,790.0	3,820.0	3,850.0	千人	単年度値
		実績値	3,782.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		しまね観光総合支援事業補助金 採択事業数 H30:25件/R1:14件 周遊バス運行 H30:4コース/R1:4コース 観光コーディネーター支援対象団体 H30:6団体/R1:4団体 しまねの観光認知度調査 ①旅行意向割合 R1年度1回目:60.4% ②ご縁の国しまね認知度 R1年度1回目:16.3%								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>しまね観光総合支援事業費補助金:民間主導の旅行商品づくりに繋がっている。</li> <li>周遊バス運行:県補助無しでの自走を始めたコースや新たな周遊バスコースの造成に繋がっている。</li> <li>観光コーディネーター支援:観光事業者連携による旅行商品造成の支援に繋がっている。</li> <li>継続したプロモーションにより認知度は向上しつつあるが、更なる観光誘客にむけて旅行意欲を喚起する必要がある、「歴史文化」「自然」「伝統芸能」「美肌」の4つのテーマを設定し、島根の観光をより具体的にイメージできるよう情報発信を展開した。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光プロモーションのテーマである「ご縁」等を体感できる観光地・観光商品が少なく、認知も低い。</li> <li>個人旅行者のアクセスが不便。</li> <li>石見・隠岐地域への県外からの誘客や、県東部と繋がる周遊ルートが確立されていない。</li> <li>島根県の認知度向上及び来訪意欲の喚起を図るためのメディアでの周知が不足している。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地、観光商品をつくり、磨き上げるノウハウ、仕組みが不十分。</li> <li>旅行会社、個人旅行者のニーズの把握が不十分。</li> <li>来県する1次交通、観光地の周遊に利用する2次交通ともに限られている。</li> <li>首都圏におけるメディア営業の機能が弱い。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行商品として成立、定着が見込まれる新しい取り組みについて、更なる掘り起こしと伴走型の支援を行う。</li> <li>バリアフリー観光、サイクリング、教育旅行など、今後の伸びが見込まれる分野の取組強化。</li> <li>石見・隠岐地域独自の観光資源を活用した旅行商品づくりや情報発信の強化。</li> <li>1次交通、2次交通、それぞれを担う交通機関と連携したプロモーションの実施。</li> <li>ノウハウと実績のある首都圏のPR専門会社に委託し、メディア営業の機能を設置し、戦略的にメディア訪問等を実施する。</li> </ul>





## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、国民等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、未来に継承していく。		105,489	120,712
			うち一般財源 (千円)	103,089	120,712
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究報告書を発行し、全国の図書館等へ配布、ホームページへ掲載</li> <li>・パネル展や動画作成により、調査研究成果を県民等へわかりやすく発信</li> <li>・県外講座の開催、リーフレットの多言語化による情報発信強化</li> <li>・大田市による文化財の保存整備のための伝統的建造物等の保存事業や情報提供環境整備のための現地での標識整備等を支援</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究成果を効果的に活用し、分かりやすい発信を行うために、調査研究体系の見直しを行った。</li> <li>・県内向け情報発信強化のため、ショッピングセンター等の、より効果的な会場でパネル展を計画した。</li> </ul>				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度値
		実績値	8.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	%
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度値
		実績値	91.2							
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産石見銀山の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、H29年度37.7%、H30年度32.9%、R元年度33.9%と推移</li> <li>・石見銀山の入込客延べ数は、H29年度324,800人、H30年度246,300人、R元年度265,300人と推移</li> <li>・子ども向けワークショップ(出雲市108人)</li> <li>・県外講座(第1回広島市314人、第2回東京都260人)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏における石見銀山遺跡の認知度は県内他地域に対し比較的上位である。</li> <li>・石見銀山の入込客延べ数は、近年漸減傾向で世界遺産登録以前と同程度の30万人前後で推移している。</li> <li>・調査研究や伝統的建造物の保存整備、標識等の整備など着実に進んでいる。</li> </ul>
課題分析	① 課題	・石見銀山遺跡とその文化的景観について、その価値や魅力が十分に伝わっていない。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石見銀山遺跡は多様な構成資産と広大なエリアを有するため、その価値や魅力を示す情報は膨大で多岐にわたり、魅力が伝わりにくい。</li> <li>・調査研究は、登録時のICOMOSの指摘に対応するため、専門性の高い学術的な観点から進めてきており、一般の方にわかりにくい。</li> <li>・史跡エリアが広大なため、案内標識やWi-Fi環境等の整備が途上である。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の方にとってわかりやすく伝わりやすい研究テーマを設定し、調査研究を推進する。</li> <li>・石見銀山遺跡の理解が深まるよう、調査研究を通じたわかりやすい成果の情報発信や体験型イベントを行う。</li> <li>・大田市や地元関係団体、他部局等との連携により、石見銀山遺跡の保存整備、情報発信を強化する。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、国民等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化を、県民、国民に広め、県民には郷土への自信を培ってもらい、県外の方々にしまねの歴史文化の素晴らしさを知ってもらう。		286,194	62,588
今年度の取組内容	(1) 展示会開催 里帰り展「行列 雲州松平家と出雲国造家」 (2) 県民参加型事業(講座) ①出雲国風土記連続講座(松江) ②隠岐国巡回講座・ワークショップ ③石見国巡回講座・ワークショップ (3) 県外における情報発信(講座、シンポジウム) ①出雲国風土記シンポジウム(東京) ②東京連続講座 ③日本遺産講座(近畿圏、広島) (4) 他県との連携事業 ①古代歴史文化賞 ②古代歴史文化に関する共同調査研究(14県事業)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	令和元年度に東京で開催した日本書紀成立1300年特別展「出雲と大和」により高められた島根への興味・関心を更に継続・発展させていくため、日本書紀と出雲をテーマとするシンポジウムを東京で開催するほか、出雲・石見・隠岐各地の多彩な歴史文化の魅力伝える講座を県内外で開催し、効果的な情報発信を図る。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、松江市で開催を予定していた第7回古代歴史文化賞記念シンポジウムを中止したことなどが影響し、令和元年度の講座・シンポジウム等への参加人数は平成30年度(5,283名)よりも減少した。 ・日本書紀成立1300年の節目である令和2年の1月から、奈良県などと共同で東京国立博物館において特別展「出雲と大和」を開催し、島根県と奈良県の歴史文化の魅力を全国へ広く発信した。(来場者136,054名、関連講座等受講者計1,456名、関連イベント来場者計742名) ・観光振興課及び大阪事務所と連携し、大阪でしまねの歴史文化をテーマとした島根学講座を開催した。(2回 計494名参加)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、特別展「出雲と大和」の会期短縮をはじめイベントの一部中止などを余儀なくされたが、これまで同様、県内外における講座やイベント、他県との連携事業などを通じ、歴史文化の活用・情報発信に取り組んだ。特に、東京で実施した特別展では、13万6千人を超える来場者においていただき、多くの方々にしまねの古代歴史文化の魅力に触れていただいた。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	県内外における講座、イベントなどには毎年大勢の方々に参加していただいているが、しまねの古代歴史文化の魅力の全国における認知度は、まだ十分とは言えない。 ・島根県単独の情報発信では、認知度向上に限界がある。 ・広報、情報発信の手法が限定的、固定化している。
	③ 方向性	・他県との連携の推進 14県共同調査研究の共同研究テーマである「古墳時代の刀剣類」に連携して取り組み、令和4年度の展示会開催と成果図書の刊行を目指すとともに、中間研究発表会を毎年東京で開催するなど、今後も全国へ向けた情報発信を積極的に行う。 古代歴史文化賞の共同主催者である4県に対し、引き続き地元マスコミなどへの周知や広報を積極的に行うよう働きかける。 ・県内外での講座やイベントを継続して開催し、多くの方々に参加いただくことで、しまねの歴史文化の浸透を図る。 ・県内外を問わず多くの方々にしまねの歴史文化に触れ、楽しんでいただけるよう、ホームページやインターネットを活用した情報発信ツールの開発やデジタルコンテンツの充実を図る。